

学 校 経 営 方 針

I 北星小学校の教育目標

＝ 豊かな人間性とたくましい実践力をもった子どもの育成 ＝
よく考える子（知） 思いやりのある子（情） ねばり強い子（意） じょうぶな子（体）

II 目指す子ども像

よく考える子	→ 進んで知識を求め、実践力に富んだ子ども
思いやりのある子	→ 人間や自然を愛し、美に感動する心豊かな子ども
ねばり強い子	→ 理想に向かって自らを律し、やりぬく子ども
じょうぶな子	→ 生命を尊重し、健康でたくましい子ども

III 基本的な考え方

- 1 進化した学びの実現を目指し、教育の変革に柔軟に対応できる教育課程の改善充実を図る。
- 2 主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じた授業改善への着実な歩みを刻む。
- 3 子どもの「安心・安全」確保を基盤とした教育環境を整え、心身両面の安定維持が確実に保障できる指導体制構築を図る。
- 4 「教育は人なり」の言葉が示す通り、学校教育の成否は教師に負うところが大きい。
- 5 教育の本質は「教師と子どもの人間的な営み」であり、その営みの中で子どもは教師の感化を受け、人間として成長する。
- 6 子どもへの指導を通して、教職員は専門性ととともに、人間性や教師としてのあり方（品性）の向上に努めることが必要である。
- 7 「目指す子ども像の実現」を判断基準・価値基準とし、前例踏襲・現状追認から抜け出し、チームとしての機能を働かせながら本校教育の改善を図りたい。

IV 重点事項

- 1 運営面：「学校・家庭・地域が一体となった学びの環境づくり」
 - （1）学校評議員会を核として「地域とともにある学校づくり」を推進する。
 - （2）地域人材及び資源等の活用をより充実させ、学びの場の拡充を図る。
 - （3）各種情報発信により、教育活動の可視化と公教育としての説明責任を果たす。
- 2 指導面：「確かな学力・豊かな心・健やかな体をバランスよく育む学年学級経営」
 - （1）開かれた学級経営を心がけ、学年又はブロックを核とした協働体制を確立する。
 - （2）学級が児童の「心の居場所」となるよう支持的風土に満ちた雰囲気醸成する。
 - （3）児童一人一人のもつよさや可能性を伸長させ、豊かな自己実現を促す。

V 具体的推進事項

1 学習指導の充実

自ら学び、考え、解決しようとする意欲と学び方を育てる学習指導の充実と学力向上を図るため、授業改善及び指導方法改善の視点を明確にする

- (1) 苫小牧市学力向上アクションプランの推進
 - ① 共通取組事項を踏まえた授業改善の推進
 - ② 授業改善に向けた課題解決的研修の推進
 - ③ 読書啓発活動の推進
 - ④ エリア会議学力向上部会の充実
- (2) 各種学力調査結果や児童の実態を踏まえ、個に応じた指導の充実
 - ① 各種調査結果や実態から明らかになる課題の共有化及び個々の児童の特性把握
 - ② 個に応じた指導のための指導方法や指導体制の工夫改善
 - ③ 学力向上対策チームを核とする組織的な授業改善の充実
- (3) 学びに向かう力、人間性の確立
 - ① 知識・技能の確実な習得
 - ② 習得した知識・技能を活用させる思考力、判断力、表現力を伸長させる場の設定
 - ③ 「令和の日本型教育」の実現を目指した授業改善の推進
- (4) 指導方法の改善
 - ① 児童の実態、教科や単元の特徴に適した指導方法の改善
 - ② 各種加配教員の活用を最大限に生かした指導方法の改善
 - ③ ICT等の効果的活用による指導方法の改善
- (5) 言語環境の整備
 - ① 各教科の特質に応じた言語活動の充実（国語科を中核として）
 - ② 学校生活全体における言語環境の整備（適切な言葉遣い、挨拶の励行）
- (6) 学力を下支えする「北星スタンダード」の徹底
 - ① 学習規律の統一（板書、ノート、机上、持ち物）
 - ② 発達の段階を意識した家庭学習の啓発
 - ③ 朝学習や補習等の設定の工夫

2 心を育む教育活動の推進

基本的な生活習慣や規範意識、生命尊重や思いやりの心等を培い、安定した心で生活する態度を身に付ける教育活動を推進する。

- (1) 苫小牧市道徳教育アクションプランの推進
 - ① 児童が考え議論する道徳の促進
 - ② 道徳カリキュラムの充実
 - ③ 情報モラル教育の推進
 - ④ 積極的な外部講師招聘による「こころの授業」の展開
 - ⑤ エリア会議道徳部会の充実
- (2) 地域・PTAとの連携による各種体験活動の充実と場の設定
 - ① 積極的な教育資源としての地域の人材活用
 - ② 外部講師とのふれあいによるコミュニケーション能力の育成
- (3) 図書ボランティア、学校司書との連携した読書活動の充実
 - ① 学校司書と担当教師との緊密な連携
 - ② 図書ボランティアから寄せられる声を活用した図書館運営
 - ③ 朝読書及び保護者による読み聞かせの充実

3 健やかな体を育てる教育活動の推進

健やかな体は人間の活動の源であり、健康維持のほかに、意欲や気力といった精神面の充実に大きな役割を果たしていることを認識し、運動面・健康面・安全面にかかる活動の充実を図る。

(1) 苫小牧市体力向上アクションプランの推進

- ① 授業改善の推進
- ② 新体力テストの実施と結果を踏まえた運動プログラムの実施
- ③ 運動習慣向上に向けた家庭との連携

(2) 災害や事故から生命を守る指導を徹底し、子ども自身が生命を守ろうとする意識の育成

- ① 子どもの危険回避能力を高める安全計画の改善・充実
- ② より現実的な交通安全教室、避難訓練、防犯教室等の工夫・改善

(3) 感染症から身を守るための方法と、他に感染させない方法、並びに日常生活における健康に関する知識の理解や体験的な活動を通して、子ども自らが関心を高める指導の充実

- ① 「学校の新しい生活様式」の理解と徹底

(4) 清掃指導を徹底し、校舎内外の美化に努めようとする意識の育成

4 生徒指導の充実

心のふれあいを大切にし、思いやりの心を育み、よりよい生き方について考えを深める生徒指導の充実に努める。

(1) 生徒指導の基盤となる児童理解の深化

- ① 子ども一人一人に対する多面的・総合的な理解（チーム北星として）
- ② 人間的なふれあいによる教師と子どもの信頼関係の構築
- ③ アンケート等データを活用した客観的な実態把握
- ④ エリア会議生徒指導部会の充実

(2) 望ましい人間関係づくりを基盤とした豊かな集団生活が営まれる環境の整備

- ① 子ども一人一人が存在感をもてる共感的な人間関係の構築
- ② 自己決定の場の保障と自己実現を図れる人間関係づくり
- ③ 学年の枠を超えた温かい人間関係の醸成

(3) いじめ・不登校の未然防止、早期対応・解決

- ① いじめ・不登校の未然防止・早期発見のための組織的、計画的な取組
- ② 子ども個々の居場所となり得る受容的な学級の構築
- ③ 個や集団の状態に応じた指導のあり方の追求と関係諸機関との連携

(4) チーム北星として組織的、計画的な積極的生徒指導の展開

- ① 学習、生活の全ての共通取組事項を北星スタンダードとし共通理解、共通行動とする。
- ② 家庭や地域社会及び関係機関等との連携・協力

5 特別支援教育の充実

特別な支援を必要とする子どもの自立や社会参加に向けた取組を支援する視点から、子ども一人一人のニーズを把握し、能力や可能性を伸ばし、生活や学習上の困難を改善または克服するための指導・支援を行う。

(1) 苫小牧市特別支援教育アクションプランの推進

- ① 個別の各種計画等の作成および活用の推進
- ② 授業改善推進
- ③ エリア会議特別支援部会の充実

(2) 一人一人の教育的ニーズを把握し、適切かつ必要な支援(通級指導の充実)

(3) 学級担任や子どもを組織として支える校内支援組織の充実と教師の指導力向上

(4) インクルーシブ教育の理念を理解し、全ての子どもにとって「わかる」「できる」を実感できる教育環境の整備と指導法の研究

6 開かれた学校づくりの推進

学校評議員会を核として、本校の教育活動に関するより一層の理解を求めて情報を発信し、地域の教育力を学校教育に活用するとともに、学校の教育力を地域に反映させて、開かれた学校づくり及び信頼される学校づくりを推進する。

- (1) コミュニティ・スクール体制確立に向けた条件整備
- (2) 学校教育力エリア会議を軸とした小中連携
 - ① 苫小牧市学校教育力向上マスタープランの強力な推進
 - ② 各部会の主体的な課題の明確化
- (3) 学校・家庭・地域のそれぞれが双方向に開かれた連携の構築
 - ① 各種通信の充実と積極的な情報発信
 - ② 十分な説明をした上でのニーズや期待に応じた教育活動の展開
 - ③ 地域人材をはじめとする教育資源の有効活用

7 教育公務員としての資質・能力の向上及び働き方改革の推進

学校教育は子ども、保護者はもとより、地域住民との信頼関係の上に成立しているものであり、学校教育に直接携わる教職員には、専門性ととも高度な倫理観をもつことが求められていることから、自らが人間性や教職員としてのあり方（品性）の向上に努める。

また、学校教育充実の視点で業務改善を推進することにより、教職員の心身の健康を維持し、持てる資質・能力を十分に発揮できる環境を構築する。

- (1) 教育公務員としてのコンプライアンスの徹底
- (2) 「北海道アクションプラン」に根差した働き方改革の推進
 - ① 『個の”気付き”』・・・教職員個々によるタイムマネジメント等の検証
 - ② 『チームの”対話”』・・・業務改善コアチームを核とした業務内容見直し
 - ③ 『地域との”協働”』・・・学校評議員会と連携した働き方改革の推進